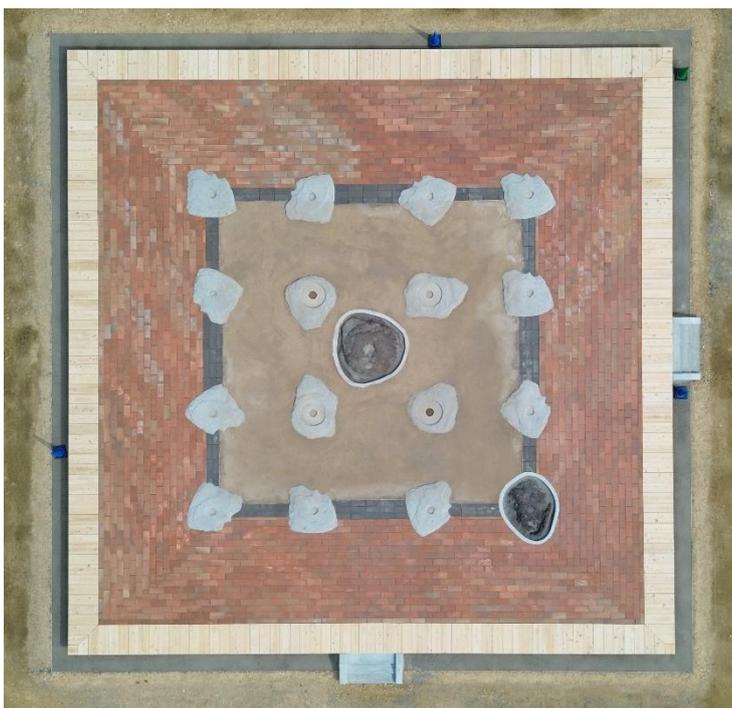


- 特別史跡 遠江国分寺跡  
跡塔・回廊(南西部)の整備工事が完了しました！P1～2
- 高木秋葉山常夜燈 修復記念式をおこないましたP3
- 旧見付学校「昔の授業体験」参加者募集・・・P4
- コラム『どんぐりという木はない』竹内直文 P4

## 特別史跡 遠江国分寺跡 塔・回廊(南西部)の整備工事が完了しました！



令和6年度に整備した塔・回廊木装基壇（南西から撮影）



完成した塔木装基壇（真上から撮影）

磐田市では、平成17年度より**特別史跡遠江国分寺跡**の再整備事業に取り組んでおり、最新の調査・研究成果に基づき『整備基本計画』を策定しました。

令和3年度からは、現地にて再整備工事を着手し、これまでに**僧房**と**講堂**、**金堂**の整備が完了しています。

そして、令和6年度には**塔**と**回廊(南西部)**を対象に基壇の整備工事をおこないました。今回はその見どころをお伝えするとともに、長らく検討を進めてきた**木製燈籠**の復元案がまとまりましたので、合わせてご紹介します。

遠江国分寺跡、位置、木装基壇について詳しくはコチラ！



## ここが見どころ！塔・回廊木装基壇

令和6年度の整備工事では、古代の遺構を地下に**保存**した上で、その直上に発掘調査成果に基づき塔と回廊の**実寸大木装基壇**を復元しています。

### 塔

天平13年(741)に聖武天皇により発布された「国分寺建立の<sup>みことのり</sup>詔」によると、国分寺には**七重塔**を建てるように指示されています。遠江国分寺の塔跡では、発掘調査で南北17.9m×東西17.8mの木装基壇が発見されました。



心礎整備状況

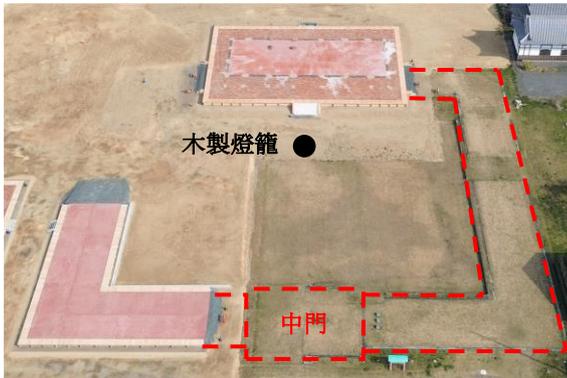
塔跡には、奈良時代の**心礎**(塔の中心部の柱を支える**礎石**)と**側柱礎石**ひとつが今も変わらぬ位置に残されています。心礎は直径約2mもある巨大なものです。

塔基壇では、見学に訪れた皆さんが現地で当時の礎石を現地で見る事ができるよう、心礎石と側柱を**露出展示**する整備をおこないました。

※奈良時代の礎石を露出させるため、塔基壇は当時の高さより低く整備されています。

### 回廊

回廊は、中門と金堂をつなぎ、金堂正面の儀礼空間を囲うように建てられています。発掘調査では幅9.1mの木装基壇が発見されました。



回廊整備状況 (赤線はR7年度整備対象)

遠江国分寺の回廊は、基壇幅が9.1mと広いことから**複廊型式**(回廊中央に壁があり、外と内に分かれている型式)であると推測されています。

今後、基壇上面の舗装には柱筋にあたるラインに切れ込みを入れ、複廊であることがわかるよう表示をしていきます。令和7年度には引き続き東側の回廊を整備していく計画です。

## 木製燈籠再現にむけて

金堂正面にて木製燈籠の痕跡が発見されたことから、整備事業ではその再現を計画しています。木製燈籠の現存事例がないことから復元検討は難航しましたが、令和6年度末について復元案がまとまりました。

磐田市では、現地での再現を目標に引き続き整備事業を進めていきます。完成を楽しみにお待ちください。

※木製燈籠の模型(30cm/実物の10分の1サイズ)を、磐田市埋蔵文化財センター(祝日のみ休館)にて展示しています。

左画像：木製燈籠復元CG



# 高木秋葉山常夜燈 修復記念式をおこないました

4月6日（日）に、市指定文化財である高木秋葉山常夜燈の修復記念式をおこないました。高木秋葉山常夜燈の修理・復元について、また、修復記念式と修理にあたり寄与していただいた大庭辰世氏への感謝状贈呈の様子についてご報告します。

## 高木秋葉山常夜燈とは

秋葉山常夜燈は、火防の神として知られる秋葉山（浜松市天竜区）への信仰を示したもので、見付や福田、竜洋など磐田市内各地に残されています。

なかでも、竜洋にある高木秋葉山常夜燈は、明治元年（1868）に十郎島の大工棟梁・曾布川藤次郎によって造られたもので、鶏や松などの動植物の彫刻が施されているほか、屋根には兎や亀、仙人などの飾り瓦が置かれています。

平成元年に竜洋町指定文化財に、その後、市町村の合併に伴い平成17年に磐田市指定文化財となりました。



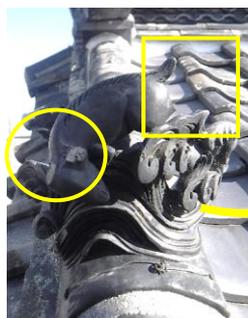
地図

高木秋葉山常夜燈



## 修理・復元

今回の修復では、瓦の葺き直し、瓦と彫刻の欠損・割れ等の修理・復元、耐震補強などをおこないました。修復にともない、瓦や彫刻などの一部の部材を市内在住の大庭氏から寄贈していただきました。



修復前

瓦の欠損部分の復元（兎の耳・足）



修復後



着色前

彫刻の欠損部分の復元と着色（獅子が乗る鞠）



着色後

写真提供：株式会社天峰建設

## 当日の様子



感謝状の贈呈

修復記念式当日は、市職員による『竜洋の秋葉信仰』と題した講演の後、修理にあたり寄付をいただいた大庭氏に市長から感謝状の贈呈、そして修復を終えた秋葉山常夜燈のお披露目をおこないました。式には、地元自治会の方々も参加し燈籠の修復を祝いました。

今後も地域の歴史を伝える文化財として、管理・活用、次世代への継承に努めていきます。

# 旧見付学校「昔の授業体験」参加者募集



授業風景

かすりの着物を着て、明治時代の小学生になった気分  
で昔の授業を体験してみませんか。

当日は、現在の国語や音楽、体育にあたる授業のほか、  
竹馬や竹トンボなど昔の遊びを予定しています。

と き：6月7日（土）午前9時30分～11時30分

と ころ：旧見付学校（磐田市見付 2452-1）

対 象：小学生

定 員：30人

参加費：500円

申 込：5月20日（火）までに、電子申請

または直接、旧見付学校へ

申込二次元コード

問合せ：旧見付学校 電話・FAX 0538-32-4511



## 職員リレー コラム

### どんぐりという木はない

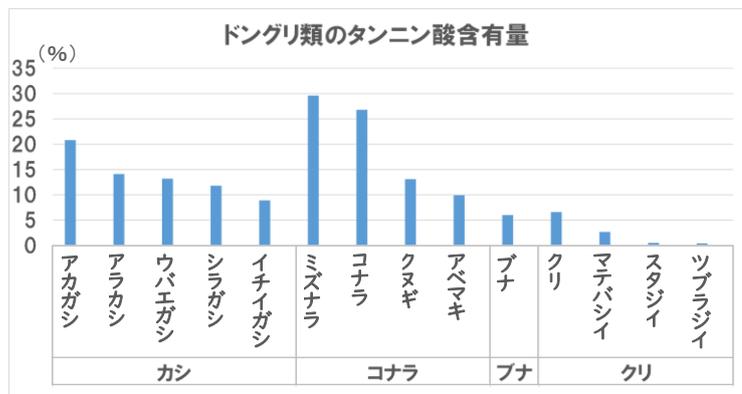
竹内 直文

3月で定年退職を迎え、4月から再任用職員として引き続き文化財課でイチから頑張ろうと思います。引き続きご指導をいただければと思います。

さて、昨年度は講座を行う機会が多く、依頼先のお求めで原始・古代の講座も数多くさせていただきました。中でも縄文時代に触れる場合、どんぐりは大切な食糧であったとされていますので、どんぐりについて改めて自分なりに調べてみました。

どんぐりという木はなく、ナラ、カシ、シイなどに成る茶色の硬い木の実をどんぐりといいますが、ほとんどはタンニン酸という渋み成分のせいで食べることができませんが、縄文時代人は苦勞してあく抜きをして食べていたことがわかっています。

植物に含まれるタンニン酸の量を分析した論文がインターネット上に公開されており、それを元にして右のような表を作ってみました。人間はタンニン酸が1%でも含まれていたら食べることができません。それでもあく抜きをしてまで食べた縄文時代人の食への執念をより一層感じることができました。



大森他 2023「植物資源中の被食防御物質タンニンの分布：哺乳類のタンニン接種の潜在的可能性について」

『哺乳類科学』63(2) 日本哺乳類学会 掲載表より作成

**編** 小学生の時に、学校で縄文クッキーを作ったことを思い出しました。シイの実が材料  
**集** だったかと思いますが、意外と美味しく出  
**後** 来上がり驚いた覚えがあります。  
**記**

発行：磐田市教育委員会事務局教育部  
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)  
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1  
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。磐田 文化財だより

検索